

平成26年度 同好会事業報告

上高井掃除に学ぶ 同好会 世話係名 依田 周二 会長名 中村 文成

月 日	実施した事業内容	参加人員
5月2日	発足会、世話係・会長会	
7月27日	第7回長野県清掃サミット参加	2名
7月30日	夏期同好会 森上小学校掃除に学ぶ会	6名
9月14日	栗ガ丘小学校掃除に学ぶ会	5名
3月15日 (予定)	小布施中学校掃除に学ぶ感謝の会	
毎月第2日曜	小布施掃除に学ぶ会の例会に参加	

夏期同好会では、森上小学校をお借りして、トイレ掃除を行いました。夏の盛り、窓を開けていても汗はしたたり落ちてきます。四十分ほど便器を磨いたところで、「さあ、便器の掃除はあと五分で終わりましょう」と声を掛けました。一心不乱に便器と向き合っていた先生方は、「えっ、もう終わり?」、「もう少しで汚れを落とせるのに・・・」と残念そうです。二時間もトイレ掃除をするというと、「そんなに掃除する所があるの?」と聞かれますが、このような感想は参加者の多くに共通するものです。

また七月二十七日には、長野県中学校清掃サミットに、会員の勤務する学校から二校が参加しました。午前中は生徒と一緒に掃除をし、午後は話し合いを行いました。県外から参加された方々は、清掃について真剣に討議する中学生の姿を見て、一様に感銘を受けるようです。

元長野県高等学校校長会長の藤本光世先生は、県内の各高校で学習合宿や県外高校視察など、学力向上に関する数々の先駆的な取り組みを実行されました。信濃教育第一四五二号で、それらの取り組みについて詳述されています。その最後に、「学校の活性化と生徒の学力向上で最も重要なのは清掃、特にトイレ清掃である。・・・それは、そこに心が反映するからであり、心がしっかりしないでどうしてしっかりとした学習が出来るのだろう」と仰っています。そして、どのようにすれば生徒が自発的に

清掃に取り組むようになるのかを、次のように書かれています。

「強制して、あるいは説得すれば清掃してくれるのだろうか。それではダメだ。強制からは反発しか生まれない。そして、分かることと行うことは違う。教師が自分でやることである。後姿で知らせることである。人格で伝えることである。信州教育の伝統はここにあると思う」

私たちはこの言葉を忘れず、掃除に学び続けたいと思います。

(同好会長 中村文成)